

公益社団法人大垣青年会議所スローガン

共創力

～信義誠実の精神で西美濃の永続的発展を実現する～

公益社団法人日本青年会議所スローガン

Raise Your Flag

理想への挑戦

公益社団法人日本青年会議所 東海地区協議会スローガン

繋がりが実現する 未来に誇れる 強くしなやかな東海の創造

公益社団法人日本青年会議所 東海地区 岐阜ブロック協議会スローガン

17色の想いで描こう

リソースをいかした希望あふれる岐阜の理想図

(1) 2025 年度(第 74 期) 基本方針

1. 信頼関係を大切にして共創型リーダーを育成する
2. 地域みらいビジョンを見据えて西美濃を共創する
3. 多様なネットワークを活かして共創関係を深める
4. 会議の質を高めて共創意識を向上させる
5. 共感を呼ぶ拡大運動で共創の輪を広げる

理事長所信

理事長 柳瀬 芳仁

共創力

～信義誠実の精神で西美濃の永続的発展を実現する～

【はじめに】

2025 年は、1945 年の第二次世界大戦終結から 80 年になります。戦前から有数の工場地域であった大垣市は、戦時中に合計 6 回もの空襲に見舞われました。1945 年 7 月 29 日の大垣空襲では約 2 万発もの焼夷弾等が投下されて市街地は焼け野原となり、当時国宝だった大垣城も焼失しました。当時の大垣の方々は、家族を失い、家を失い、故郷のシンボルまで失って、失意のどん底にあったに違いありません。

大垣青年会議所は、このような大垣空襲からわずか 7 年後の 1952 年、35 名の先達によって全国で 25 番目の青年会議所として設立されました。戦後の混乱期という想像を絶する暗闇の中で、日本及び世界の繁栄と平和に寄与することを目的として掲げ、TRAINING(個人の修練)・SERVICE(社会への奉仕)・FRIENDSHIP(世界との友情)の三信条のもと未来を自らの手で創ることを力強く宣言されたのです。この決意と情熱は、戦後の西美濃を照らす希望の灯となり、先輩方の不斷の努力によって 73 年間受け継がれてきました。大垣青年会議所の会員である私たちには、歴史を繋いでこられた先輩方に感謝し、託された希望の灯を消すことなく更に次代に繋げていく責務があります。

戦後 80 年という節目を迎える今年度、あらためて創始の精神に思いを致すと共に、青年会議所の理念である明るい豊かな社会を創るために、一青年として現在の社会課題に全力で向き合っていきましょう。

【共創力とは】

現在、私たちは、将来予測が困難な時代を生きています。新しいテクノロジーやSNSによる社会構造の変容、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのパレスチナ攻撃、歴史的な円安と物価高、能登半島地震等の激甚災害、超高齢化社会と2025年問題など、様々な社会課題が複雑に絡まって将来予測を困難にしています。これに伴って私たち自身の価値観もかつてない速さで変化しています。

このような混沌とした時代、私たちは明るい豊かな社会を創るためにどのような運動を展開するべきでしょうか。私はその答えを共創(co-creation)に見出します。共創とは、多様な立場の人たちが対話しながら新しい価値を共に創り上げていくことを指す言葉です。もとはビジネス用語で、企業が顧客の意見をもとに新商品を開発する場面などで用いられていました。しかしながら、今や共創の概念は大きく進化しており、企業と企業が一緒に新しい事業を行う事業共創、企業と行政がアイデアを出し合う官民共創、異なる世代の人たちで持続可能な社会を目指す多世代共創も生まれています。共創によって新しい手法を次々と創り出すことができれば、その中から複雑な社会課題を解決する手法を見つけることができるのです。

もともと、共創の考え方は、私たち大垣青年会議所にとって目新しいものではありません。もとより、大垣青年会議所は、20歳から40歳の出自も仕事も異なる多様な会員同士が議論し、社会課題を解決するための手法を創り出してきました。過去の事業を振り返ると、住民が参画する「まちづくりコンテスト」から生まれた「ツール・ド・西美濃」において、各行政や関係各団体の方々と協議を重ね、官民一体の広域事業を行ってきました。大垣青年会議所は、これまで西美濃の共創の場で在り続けてきました。ならば私たちも大垣青年会議所を学び舎とし、その活動や運動に精一杯打ち込むことで、共創を実現していくための力である「共創力」を高めることができるはずです。会員一人ひとりが共創力を發揮して、現在の社会課題から目を逸らすことなく正面から挑んでいきましょう。

【信頼関係を大切にして共創型リーダーを育成する】

青年会議所は、JCI Missionにある通りにリーダーシップの開発と成長の機会を提供してくれます。現在の JCI Missionは 2022 年に改定されたもので、新たに「leadership」を追加することによって、青年会議所が世界で活躍できるリーダーを育成するための組織であることを明示しました。将来予測が困難で価値観がかつてない速さで変化する世界。今までの正解が一つの間にか正解ではなくなるような時代。私たちが生きる現在には、多様な立場の人と対話して共感を生み、新たな正解を共に創ることができるような共創型のリーダーが求められているのではないでしょうか。そして、共創型のリーダーになるためには、コミュニケーション能力の向上はもちろんのこと、それ以上に信頼関係を大切にしながらリーダーとして成長することが必要になると考えます。

青年会議所は、会員一人ひとりが成長を目指して修練を積む場所です。周囲から信頼されるリーダーになるためには、まず自らを鍛え磨く必要があります。家庭や仕事に加えて青年会議所の活動や運動を行う日々、時には投げ出したくなることもあるかもしれません。しかし本当に投げ出てしまえば、今度はそれまで支えてくれた仲間の信頼を失う結果になってしまいます。他方で、家庭や仕事を疎かにすれば、家族や職場の信頼を失うかもしれません。あらゆる信頼関係を大切にするために己を律して必死

で考え方行動する。それは決して楽なことではありません。それでもこのような修練を重ねていると、あるとき今までの考え方や行動を上手に変化させて前に進む道が見えてきます。それは、時間の使い方の見直しであったり、仕事上の工夫であったり、精神面の変化かもしれません。この前に進む道を見つける体験こそが大きな糧となり、リーダーとしての成長に繋がるのです。

青年会議所は、目的意識を持って成長を望めば望んだ分だけ成長の機会を与えてくれます。時代に求められるリーダーになるため、今こそ自分を見つめ直し、信頼関係を大切にしながら一緒に成長していきましょう。

【地域みらいビジョンを見据えて西美濃を共創する】

私たちが描く未来の西美濃とはどのようなまちでしょうか。将来予測が難しい現代では、最初に実現したい未来像であるビジョンを描き、そこを起点に逆算して課題解決を考えるバックキャスティングが求められています。つまり、まずビジョンを共有してから運動を展開していく流れが重要になるのです。

大垣青年会議所は、2010 年代運動指針であった「『地球的価値』の田園都市構想～西美濃の心が一つになる瞬間～」を 2019 年に恒久的指針とし、長期ビジョンである「地域みらいビジョン」を策定しました。また、2021 年には西美濃地域 2 市 9 町の各行政と社会福祉協議会の 3 者で災害時における協力体制の協定書を締結し、これを踏まえて 2022 年に短期ビジョンである「最重点ビジョン」を策定して、2023 年から 2025 年まで「災害を見据えた広域連携に向けた取り組み」を行うことを決めました。このような流れの中、大垣青年会議所は過去 3 年間で防災意識の向上を目的とした事業を実施してきました。今年度は短期ビジョンの最終年度として総まとめの年になります。近い将来に確実に起きるとされている南海トラフ巨大地震を想定しながら、広域連携事業としてより実践的な防災に対する体験学習を行うことで更に西美濃地域に防災意識を根付かせていきます。

また、「地域みらいビジョン」を推進する上で郷土愛の醸成は不可欠と言えますが、そもそも私たちは自分の住み暮らす西美濃地域をどれくらい知っているでしょうか。観光庁は 2025 年開催の大坂・関西万博等を起爆剤にインバウンド戦略を進め、高付加価値で持続可能な観光地域づくりに取り組むとしています。今年度は、これを好機と捉えて西美濃地域の歴史と魅力を学び直すと共に、他団体と協働して西美濃地域の魅力を地域内外に発信していきます。

更に今年度は、大垣青年会議所による 2023 年から 2025 年までの運動を検証して 2026 年以降の運動をどのように展開していくかを決定します。そのために「地域みらいビジョン」について理解を深め、多様な立場の意見を踏まえて、バックキャスティングによって短期ビジョンの策定を進めていきます。

【多様なネットワークを活かして共創関係を深める】

大垣青年会議所は多様なネットワークを持っています。このネットワークとは人と人との繋がりであり、その繋がりの数だけ共創関係を構築することができるのです。もっとも、大垣青年会議所の持つネットワークを十分に活かすためには、その内容と価値をしっかりと理解することが大切です。

まず、全国・全世界の青年会議所とのネットワークがあります。これは、大垣青年会議所を中心として岐阜ブロック協議会、東海地区協議会、日本青年会議所、国際青年会議所と広がる繋がりで、各

組織の事業に参加して友情の輪を広げたり、役員や委員として出向して無二の経験を積むことができます。昨年度、私たちは岐阜ブロック協議会の主管という貴重な経験を積み、他の青年会議所との関係を深めることができました。この経験を活かすと共に、今年度も出向の機会を大切にしながら大垣青年会議所以外の事業に目を向けて、自ら進んで発展と成長の機会を掴み取りに行きましょう。

次に、花蓮國際青年商會と姉妹 JC としての交流があります。この交流は、国際理解と親善を助長する上で重要な機会となっています。花蓮は昨年 4 月の台湾東部沖地震で大きな被害を受けました。大垣青年会議所では、お見舞いメッセージを表明し、大垣 JC シニアクラブ会員の先輩方のあたたかいご支援を賜って災害義援金を送らせて頂きました。残念ながら昨年度は姉妹締結 55 周年を台湾の地で迎えることができませんでしたが、お互いの絆を再確認することができました。今年度は、花蓮國際青年商會創立 60 周年になりますので、周年事業を通じて姉妹 JC の絆をより強くしていきます。

更に、西美濃地域の他団体との交流があります。今年度、大垣青年会議所は、大垣市青年のつどい協議会の加盟団体として会長を輩出します。大垣青年会議所の役割を理解し、様々な事業に積極的に参加・協力することで、他団体のメンバーとの交流を深めながら地域の期待に応えていきましょう。

加えて、今年度は大垣青年会議所の活動や運動に関する広報を強化します。広報ツールの運用を見直してより効果的な広報を行うことで、新たな人と人との繋がりを生み出して共創関係を構築します。

【会議の質を高めて共創意識を向上させる】

大垣青年会議所は、これまで 73 年間、明るい豊かな社会の実現を目指して活動や運動を展開しながら最も適した組織の在り方を模索してきました。青年会議所は 40 歳までの年齢制限と、組織や役職の単年度制を最大の特徴としており、このシステムによって毎年のように新陳代謝が行われます。その中で歴史を重ねて今まで踏襲されてきた組織、制度、規律には、今までそうしてきた理由があるはずです。ドイツのオットー・ビスマルクの格言に「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉があります。自分の経験だけに頼らず、先輩方が経験した歴史を含めて考える必要があります。

現在、大垣青年会議所は、会員数の減少によって少人数での運営を余儀なくされています。また、テクノロジーや SNS によって社会構造が変容し、私たちの価値観もかつてない速さで変化しています。こうした現状の中、変えてはいけないものを守るためにあえて何かを変える選択をすることもあるでしょう。ただ、岐路に立ったときは、今までそうしてきた理由を踏まえながら、会議によって正解を創り出さなければなりません。例えば、大垣青年会議所の法人格の在り方についても、公益法人格を取得した背景と目的を理解し、全会員による会議によって議論を進める必要があります。会議は、青年会議所の原点であり出発点なのです。だからこそ、私たちは、会議を単なる儀式で終わらせるのではなく、会議の質に徹底的にこだわる必要があります。質の高い会議を行うことは、立場の異なる相手方と真剣に対話する経験となり、その経験がより高い共創意識へと繋がっていきます。

会議の質を高めるためには、正確かつ円滑な会議運営を行うと共に、大垣青年会議所の会員一人ひとりが主体性を持って会議に参画して活発な議論を行う必要があります。そのためには、会議を行う時間だけにスポットを当てるのではなく、普段から大垣青年会議所全体で活発な交流を行うことが大切です。会員同士で声を掛け合い、委員会に積極的に参加し、議案の作成に関わって、全ての会議を自

分事と捉えて参画していきましょう。

【共感を呼ぶ拡大運動で共創の輪を広げる】

大垣青年会議所の正会員数は現在 50 名を下回っており、今年度は更に 8 名が卒業する予定です。青年会議所の運動は「ひとづくり」と「まちづくり」と言われています。青年がお互いに切磋琢磨して成長し、その青年が地域に影響を与えていく。青年会議所の運動は会員一人ひとりの手で支えられています。だからこそ、会員数が減少すれば運動の低下に繋がっていきます。大垣青年会議所にとって会員拡大は急務であり、各委員会の枠を越えて全会員で取り組まなければならない重要な課題です。

しかしながら、会員拡大とは、ただ会員数を増やせば良いというものではありません。現在は多様性の時代と言われ、あらゆる団体で多様な人財の活躍が求められていますが、多様性を口実に何でも自由を許せば組織としての伝統や秩序は崩壊していきます。大垣青年会議所は、嵐の中を進む帆船のようなもので、会員一人ひとりが同じ目的地を目指して船に乗り込み、各々が与えられた役割を果たすからこそ前に進むことができます。同じ目的地を目指して一緒に汗をかいてくれる仲間が必要なのです。そのような仲間を一人でも多く私たちの船に乗せて、全会員で航海の感動を分かち合いましょう。

日本青年会議所は、2021 年から 2025 年までの 5 ヶ年計画で理念共感グランドデザインを策定して理念共感拡大に取り組んでいます。理念共感拡大とは、理念に共感した多くの青年に青年会議所に入会してもらう取組みになります。もっとも、候補者に対して一方的に青年会議所の理念を伝えるだけでは共感を得ることはできません。まずもって候補者の立場に立って対話をし、候補者が本当に求めているものを的確に把握し、そこに青年会議所の理念と魅力を重ね合わせて寄り添うことで初めて共感が生まれるのです。そのためには、会員一人ひとりが大垣青年会議所の理念と魅力を自らの言葉で語れるようになる必要があります。共感を呼ぶ拡大運動によって様々な立場の候補者を私たちの運動に巻き込み、共創の輪を大きく広げていきましょう。

【信義誠実の精神で西美濃の永続的発展を実現する】

多様な立場の人たちが対話しながら新しい価値を共に創り上げていく共創。その源泉は、お互いの信頼関係にあります。信頼関係がなければ異なる立場の人たちと対話することはできませんし、ましてや共感を呼んで共に新しい価値を創ることはできません。では、そもそも共創の基盤となる信頼関係とは何を意味するのでしょうか。

民法第 1 条第 2 項は「権利の行使及び義務の履行は、信義に従い誠実に行われなければならない。」と定めています。これは、社会生活を送る上で他者の信頼を裏切ったり、不誠実な行動をしてはならないというルールで、信義誠実の原則と呼ばれています。民法は社会生活上の基本的なルールを定めた法律であり、あらゆる法律の基礎になっています。その第 1 条に定められた信義誠実の原則は、私たちの社会の根本的なルールと言えるかもしれません。

しかしながら、信義誠実の原則は、あくまでも人と人を拘束するためのルールです。拘束とは制約を意味するものであり、相手を制約しても共に新しい価値を創ることはできません。私は、このことを大垣青年会議所の活動や運動を通じて学んできました。人はたとえルールで拘束したとしても自発的に動いて

くれません。私たちが真に必要とするものは、人と人を拘束するためのルールではなく、人と人を繋ぐための精神なのです。人と人を繋ぐために、相手の信頼を裏切ったり不誠実な行動をしないようにする。いつも相手の立場に立ち、相手の考えていることを想像し、思いやりの心をもって接していく。私は、そのような信義誠実の原則を超えた「信義誠実の精神」を何よりも大切にするべきだと考えます。

信義誠実の精神は、人と人とを繋ぐ架け橋となり、共創力の源泉となります。大垣青年会議所の会員一人ひとりが共創力を発揮してその手で西美濃の未来を創り出すとき、きっと西美濃の永続的発展を実現することができるはずです。

さあ、一緒に、未来を創りましょう。

副理事長方針

副理事長 井尾 泰隆

今年、大垣青年会議所は74年目を迎えます。ここまで存続してきた一番の理由は、73年間の活動や運動が、地域に貢献し必要とされ続けてきたからです。しかし、それだけでは組織は成り立ちません。もう一つの理由として、大垣青年会議所自身の魅力が挙げられるのではないかでしょうか。

我々の組織としての魅力は数多くありますが、私が最も魅力として考えているのは、同じ志を持った多くの仲間との新たな関係性を構築しつつ、自らの成長にも繋げられることです。LOM内でも様々な個性を持った仲間と出会えますが、LOMの外に目を向けると、地元西美濃地域の他団体、日本の全国各地のLOM、更には世界中の青年会議所の方々と関わりを持つことが可能です。その結果、新たな考え方、知識や経験を得て、飛躍的な自己成長を遂げた仲間を数多く見てきました。大垣市青年のつどい協議会や日本青年会議所、国際青年会議所の事業に積極的に参加していくことで、可能性の扉は開かれます。大垣青年会議所の魅力を最大限に活かすため、今年度も組織を挙げてこれらの事業に取り組んでいきます。

他方、近年では情報発信力が、組織の存続、活動や運動の力強さを生むための重要な要素となっています。先述しました組織の魅力についても、我々会員は理解できいても、それを組織の外に理解して頂き共感を得なければ、自己満足だけで終わってしまいます。そのために、広報手法を見直し、多くの方から求められ、見た人が心豊かになれる、新たな形での広報活動を開拓していきます。

私は入会7年目を迎え、未熟な点も多いですが、それでも大垣青年会議所で様々な経験をし、成長させて頂きました。我々の中には、まだまだ経験の浅い会員、成長の可能性を秘めた会員が多く在籍しています。それらの会員たちにも、私がそうであったように、経験を積み成長を実感して頂きたいと考えています。組織のため、会員のため、地域のため、覚悟を持って1年間活動してまいります。

副理事長方針

副理事長 恒本 浩志

青年会議所とは何か。時代とともに活動や運動の価値観が変化していく中で、JCI Mission にある通り「青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する」これが我々の使命になります。大垣青年会議所は74年目を迎え、先輩方が築いてこられた風土を引き継ぎながら、多様な時代をいち早く感知し、新たな挑戦をしていかなければなりません。そのためには、強力なリーダーシップを發揮できる組織を目指し人と人の繋がりを深めていく必要があります。

青年会議所は他団体にはない成長の機会が多くあります。多様なバックグラウンドを持つ会員が集い、単年度制による組織の中で、共に学び経験し真剣に議論を交わす1年を過ごします。もっとも会員一人ひとりがその機会をチャンスと捉えなければ成長はありません。まずは何事もやってみることが大切であり、積極的に活動や運動に取り組んで頂けるよう支援していきます。そして、事業構築や諸会議、対内外事業などを通じて、不変の信頼関係を築くために、会員同士の対話を最も大事にしていきます。対話とは、相手の立場に立って相手との価値観の違いを認め合い共感すること。常に利他の精神を持ちながらともに時間を過ごすことで、おのずと互いの信頼関係は強まる信じています。そして、信頼関係は個や組織の素養を高め、変化の激しい時代にも新たな価値を共に創造できるリーダーの育成に繋がると考えます。

人財育成担当の副理事長として、リーダーシップの開発と成長の機会を提供することを全力で支援させて頂くと共に、会員同士が手を取り合い共に創る力でより良い未来を築いていきましょう。

副理事長方針

副理事長 野田 正興

大垣青年会議所は、日本ど真ん中に位置する西美濃地域にて明るい豊かな社会の実現に励んでいます。広大な濃尾平野を清く流れる木曾三川を囲い込むように美しい山々が存在しており、山岳地域、農業地域、工業地域、住宅地域が大変バランスよく存在しているまちに属していることから、この地域の持つ資源・人財・産業・文化の開発に努め、产学研官民の連携をはかることが必要であると考えます。

今年度は最重点ビジョンを策定する年になります。最重点ビジョンとは大垣青年会議所の長い歴史の中で脈々と引き継がれている指針であり、運営規則第7章最重点事業制度第48条に掲げられているとおり、様々な歴史ある事業を展開することができたきっかけとなるビジョンとなります。今後の大垣青年会議所の事業展開に大きく関わる最重点ビジョンを策定するには、現在掲げられている最重点ビジョン「災害を見据えた広域連携に向けた取り組み」の検証と結果を产学研官民の連携を通じて全会員で共有し、策定していかなければなりません。そのためには、まず総まとめの年として近い将来に確実に起きるとされている南海トラフ巨大地震を想定しながら、西美濃地域に防災意識を根付かせていきます。そして、西美濃地域の歴史と魅力を学び直すと共に、他団体と協働して西美濃地域の魅力を地域内外に発信し、2026年以降の運動をどのように展開していくかを決定していくようにします。

私は大垣青年会議所に65期として入会させて頂き、10年目を迎える年であります。この経験を活かして会員に熱き想いを伝播させ、理事長のスローガンに掲げられる信義誠実の精神を大切にし、会員一人ひとりが共創力を發揮できるように努め、西美濃の永続的発展に寄与していくよう精一杯邁進してまいります。

専務理事方針

専務理事 中島 寿起

1952年に設立された大垣青年会議所は、今年度で74年目を迎え、先輩方が創り上げられてきた歴史、伝統は今でも会員に受け継がれています。常に課題を把握する努力をし、解決へと導き、西美濃地域の明るい豊かな社会の実現を目指して事業を行われてきた先輩方の活躍を見聞きし、尊敬を抱くとともに、現役会員も負けられない奮闘しています。

ほんの数年前と比較しても社会情勢は急速に変化し、様々な社会課題が複雑に絡まって将来予測が困難な時代へとなっています。2024年度に行った地域住民へのアンケートでは、地域に課題があると感じている人の割合は少ないものでした。モノや情報があふれ、暮らしが豊かになってきている今だからこそ、常に意識して課題を探り、先を見通し、リーダーシップを発揮していく人財が必要とされます。そして、大垣青年会議所は、その一端を担うことができる組織です。しかし、会員数は減少傾向にあり、事業規模の維持や組織運営は年々厳しくなってきています。大垣青年会議所の歴史を学び、先輩方のこれまでの功績に経緯を持つと同時に、西美濃地域を明るい豊かな社会にするために、組織を現状に合うものに変化させていくことが必要不可欠となっています。我々の事業が、西美濃地域に影響を与え続けていくために、持続可能な組織体制を作ることが専務理事としての大切な職務の1つであると考え邁進してまいります。

持続可能な組織体制を作る一方で、変えてはいけないものが会議の質です。先輩方から受け継がれてきた西美濃地域への想いを形にしている基盤は、質の良い会議にあります。全ての出発点となる会議を質の良いものにし、今年度、理事長が掲げるスローガン「共創力」を実現するためには、一人ひとりが主体性を持ち、会議に参画することはもちろん、地域住民との意見交換や、行政との関わり、先輩や会員同士の交流など、会議以外の時間も大変重要になってきます。専務理事として、会員と共に創し、質の良い会議を作るとともに、西美濃地域の明るい豊かな社会の実現を目指し、全会員が事業に全力で向き合える環境を作ることに全力を尽くしてまいります。

常任理事方針

常任理事 大杉 徹

私は、大垣青年会議所に入会して6年目を迎えました。私が入会した年は2020年、時代が「令和」に移り2年目を迎え、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、社会が大きく転換した年でもありました。社会が混乱する中でも、明るい豊かな社会の実現を目指して活動や運動を開催する先輩方の姿を見て、多くのことを学び経験してきました。青年会議所は40歳までの年齢制限と、組織や役職の単年度制という特徴があります。73年間の歴史を重ねて踏襲してきた組織、制度、規律が大きな変化にも適応できる原動力になったのだと考えます。そして、それは青年会議所の土台である会務運営に引き継がれており、次に繋げていく必要があると考えています。

青年会議所は、青年が会議を行う団体です。会議を行うには一人ではできません。会議は複数人で行うものです。しかし、より良い会議、質の高い会議を行うためには、正確かつ円滑な会議運営と共に、会員一人ひとりが主体性を持って会議に参画してもらう必要があります。会員は青年会議所の理念や活動、運動に共感して入会してきた人が多いと思います。会員同士の活発な交流を行うことによって、会員一人ひとりの繋がりが強固なものとなり、会議に対する意識も自分事として捉えてもらえると共に、共創意識を向上させることができます。また、拡大運動におきましても、会員一人ひとりが理念と魅力を自らの言葉で語れるようになり、候補者との共感を生み、共創の輪を広げていこうと考えています。

最後となりますが、会員一人ひとりが大垣青年会議所の活動・運動に邁進し、信義誠実の精神で西美濃の永続的発展を実現するため、精一杯取り組んでまいりますのでご理解ご協力をよろしくお願ひします。